

SAPへの投資価値を 最大化するInformatica Enterprise Data Catalog

利点

- SAPシステム／非SAPシステムの両方を通じてリネージを確立し、データをエンドツーエンドで可視化
- 変更管理と影響分析を強化
- コンプライアンスの監査とレポートを簡素化
- 非技術系ユーザーによるセルフサービスアナリティクスを実現
- データ主導の意思決定の信頼性の向上を実現

包括的なデータの可視化と理解

世界でやり取りされているトランザクションの75%以上が、1つまたは複数のSAPシステムと接点を持っています。ソフトウェア業界の一大ベンダーであるSAP社は、グローバルビジネスエコシステムの要として、CRMからHRまであらゆる分野をサポートするアプリケーションを事実上あらゆる業界の400,000以上の顧客に提供しています。同社が掲げる「インテリジェントエンタープライズ」というビジョンでは、最新のテクノロジーによってユーザー体験と業務を連携させることで、リアルタイムにデータをアクションへと変換します。

すべての企業が、迅速な自動化、優れた顧客体験、新しいビジネスモデル、イノベーションの加速を実現することでインテリジェントエンタープライズになることを目指しています。しかしSAP社の調査によると、74%の企業が複雑なデータ環境が俊敏性を実現する妨げになっていると回答しています。企業は、使用しているSAPアプリケーションやデータベース、データウェアハウス、ビジネスインテリジェンス／アナリティクスツールを、他のベンダーのシステムを含むインフラストラクチャ全体と連携させて、統合しなければなりません。さらに、このように元々複雑なインフラストラクチャを進化させることで、クラウドモダナイゼーション（最新化）やAI主導のアナリティクスツール、またSAP S/4HANAやSAP BW4/HANAをはじめとする新しいSAPプラットフォームをサポートする必要があります。

Informatica® Enterprise Data Catalogによって、企業はこのようなインテリジェントエンタープライズへの移行を簡素化しながら短期間で実現することが可能になります。SAP／非SAPシステム、オンプレミス、クラウドなど、データが置かれている場所に関係なく企業が保有するデータを探索および分類し、データのリネージ、他のデータとの関係、各段階（データを生成するソースシステムから、そのデータを利用する分析アプリケーションやAIアプリケーションまで）におけるデータ変換を詳細に把握できます。

Informatica Enterprise Data Catalogの使いやすい包括的なデータ検出機能により、重要なデータセットの関係や依存関係を把握し、モダナイゼーションや移行の影響を十分に理解した上で計画できます。また重要なデータ、トランスフォーメーション、ワークフローに関する詳細なインサイトを獲得できるため、法規制へのコンプライアンスも強化できます。さらに、一貫してデータの信頼性も確保できるため、エンドユーザーによるセルフサービスアナリティクスも可能になります。

主な機能

広範かつ詳細なメタデータ接続性

幅広いエンタープライズシステム（アプリケーション、データベース、データウェアハウス、クラウドデータレイク/データストア、ビジネスインテリジェンスツールなど）からメタデータを抽出できるだけでなく、すべてのSAPアプリケーション、データウェアハウス、ビジネスインテリジェンスツール（SAP ERP Central Component (ECC)、SAP S/4HANA、SAP PowerDesigner、SAP HANA、SAP Business Warehouse (BW)、SAP BusinessObjectsなど）に接続することができます。またInformatica CLAIRE[®] AIエンジンを活用することで、データを特定してビジネスグロッサリの用語、ポリシー、分類にリンクできます。

自動ドメインディスカバリ、タグ付け、類似性、キュレーション

企業組織全体を通じたデータの量、複雑性、利用が増大するのに伴い、自動化と機械学習は不可欠な機能になります。CLAIREエンジンが提供するインテリジェンスにより、Enterprise Data CatalogはSAP/非SAPシステムの両方を通じてガバナンスが必要なすべてのデータを探索および特定して、自動的に適正な業務メタデータおよび技術メタデータに関連付けます。これにより検索性に優れたメタデータレコードシステムが構築されるので、データ資産が企業データのガバナンスプログラムに与える影響を可視化して、データに関する業務上のコンテキストを理解し、データの信頼性と管理性を強化できます。またエンドユーザーはデータ資産に注釈を付けることができるので、クラウドソーシングを通じて企業データに対する理解をさらに深めることができます。

エンドツーエンドの詳細なリネージ

データの信頼性を確保するためには、全社規模でデータリネージをエンドツーエンドに追跡できなければなりません。Enterprise Data Catalogでは、データをソースからBIツール、さらにSAP/非SAPシステム（クラウドとオンプレミスの両方）まで追跡して透明性を高めることができます。まずはシステムレベルのリネージビューでエンドポイントに焦点を当て、続けて任意のリネージパスを広げて詳細なデータセット/カラムレベルのリネージにドリルダウンすることで、SAP BWやSAP BW/4HANAでのトランスフォーメーションの詳細な影響分析をサポートできます。

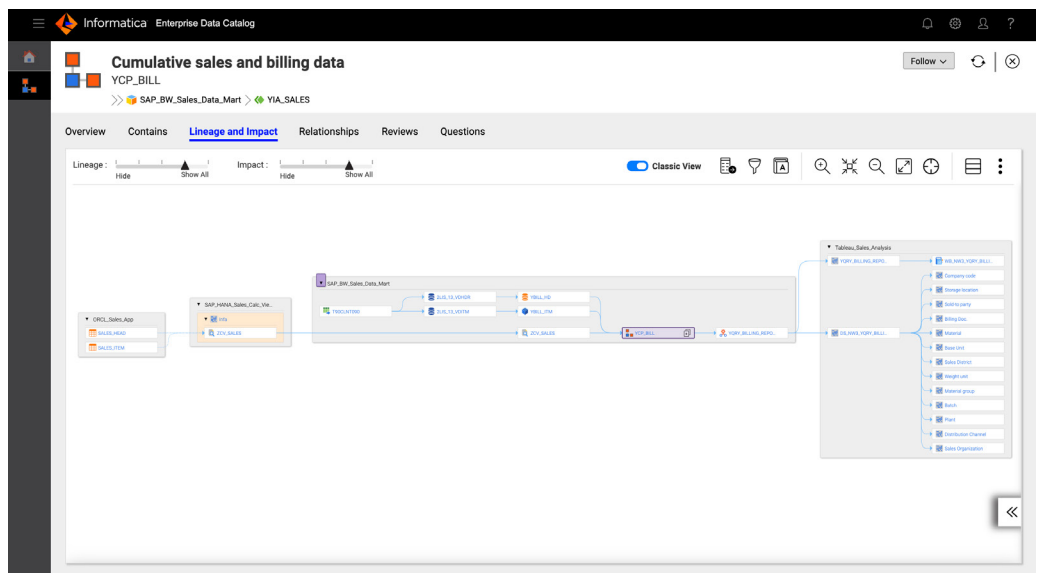


図1：OracleからSAP HANA、SAP BW、Tableauまでのエンドツーエンドのデータリネージ

データセットのプロビジョニング

企業データの探索は最初の一步に過ぎません。探索したデータをシームレスにプロビジョニングすることで、セルフサービス環境を通じてデータの利用と価値を最大化できます。Enterprise Data CatalogはInformatica Cloud Data Integrationとシームレスに統合されているので、クリック操作だけの簡単なプロビジョニングを通じて、適切な権限を持つユーザーが利用できる場所に探索したデータを配信して、セルフサービスアナリティクスを促進できます。SAP HANAをはじめ、Amazon Redshift、Azure Synapse Analytics、Google BigQuery、Snowflake、またTableauのような一般的なBIツールを含む幅広いサードパーティのソースおよびターゲットとの統合もサポートしています。

メリット

SAP/非SAPシステムの両方を通じてリネージを確立し、データをエンドツーエンドで可視化

AIを活用した包括的なデータリネージ機能により、SAP BWとアナリティクスのモダナイゼーションを戦略的に進めることができます。Enterprise Data Catalogにより、SAPやサードパーティアプリケーション、データベース、BIツール（オンプレミスおよびクラウドの両方）にまたがる非常に複雑なデータリネージでもエンドツーエンドで追跡できます。また、SAP BWや接続システムでデータがどのように変更されたのかを包括的に可視化できます。

変更管理と影響分析を強化

Enterprise Data Catalogでは、SAP BWやSAP BW/4HANAでの細かい変更（InfoCube、MultiProvider、Composite Provider、DataSource、Queryの変更など）がBIレポートに与える影響を把握できます。これにより戦略的なデータセット、関係、依存関係を特定して移行の潜在的な影響を分析することで、移行を適切に計画できます。

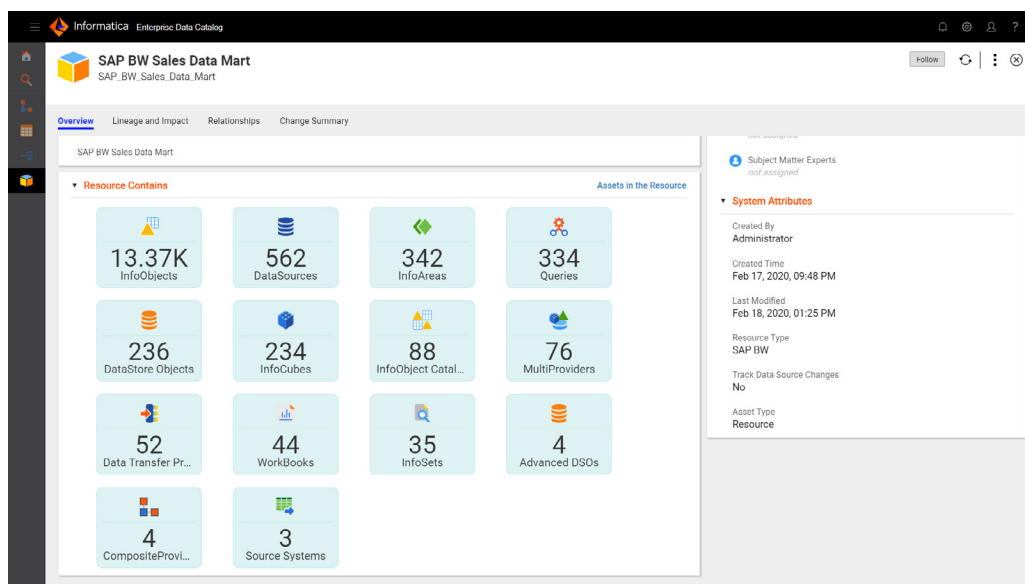


図2：Enterprise Data CatalogがSAP BWから抽出する全オブジェクトの概要

コンプライアンスの監査とレポートを簡素化

Enterprise Data Catalogでは、複雑な監査作業やレポート作成を簡素化できます。概要レベルのデータフローをエンドツーエンドで作成することにより、コンプライアンスのレポート作成を簡素化および高速化できます。必要に応じて、重要なデータ要素やSAP BW InfoObjectレベルのトランスフォーメーションを詳細に追跡することも可能です。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

セルフサービスアナリティクスの促進

Enterprise Data Catalogでは、SAP/非SAPデータセットの両方を通じて簡単かつ包括的にデータを探索できます。これによりエンドユーザーはセルフサービス式のアナリティクスツールを通じて、これまで以上にデータ資産へアクセスして理解を深めることができます。またデータ品質管理、レビュー、プロビジョニングなどの機能によって、エンドユーザーは関連性と管理性に優れた信頼できるデータを活用することができます。

インテリジェントエンタープライズの可能性を最大限に引き出す

データ量が爆発的に増加している時代、AIを基盤にするデータカタログを活用することで企業はあらゆるデータ資産を特定して、その価値を最大限に引き出すことができます。すべてのSAP/非SAPエンタープライズシステムを通じてデータの探索、分類、キュレーションを実行する——AIと機械学習の能力を実装したInformatica Enterprise Data CatalogでSAP環境をモダナイズすることによって、セルフサービスアナリティクスを促進するとともにクラウドサービスを活用して、SAP社が提唱するインテリジェントエンタープライズを実現することが可能になります。

今後のステップ

詳しくは、Informatica Enterprise Data Catalogの[Webページ](#)をご覧ください。



〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600(代表) FAX：03-3433-1021

IN17_0220_03838

© Copyright Informatica LLC 2020. Informatica, Informaticaロゴ、およびCLAIREは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。